
ベビーカー

デクテール

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ベビーカー

【著者名】

NO649H

【作者名】
デクテール

【あらすじ】

道端のベビーカー誰のものだろう。

(前書き)

ご無沙汰です

道の脇にベビーカーがある。

まるで工場から突然ワープしてきたかのように新品のきれいなベビーカーだ。

今にも雨が降り出しそうな日曜の昼下がり。

母親は……いない。

なぜこんな所に置き去りなのだろう。

散歩の途中で急用ができて母親はどこかに行ってしまった。

こんなに雨が降りそうなのに散歩?

いや、それよりも。

どこの世の中に道端に赤ちゃんを置き去りにしてどこかへ行く母親が居るだろ?うか。

赤ちゃん?

そうだ。

中に赤ちゃんがいるとは限らないんだ。

なぜ新品のベビーカーが単体で放置されているのかは分からぬが赤ちゃんの放置よりよほど穏やかな出来事だ。

つまらないことではらはらした自分が滑稽で笑みがこぼれる。

私はベビーカーに背を向けてもと来た道を引き返した。

なぜ?

なぜベビーカーの中身を確かめない?

厄介事に巻き込まれるのが嫌だから?

違う。

なぜベビーカーの横を通り過ぎない?

なぜ引き返す?

口元には笑みが浮かんだまま。

首筋を冷たい汗が流れ落ちる。

何を考えているんだ。

ただ引き返すだけだ。
ただの気まぐれだ。

何も起きてない。

不意に後ろからけたたましい赤ちゃんの泣き声が聞こえた。
やつぱりあのベビーカーの中には赤ちゃんがいるんだ。
ぽつり、ぽつり、雨が降り出した。

泣き声がいつそう強くなる。

意を決して振り返る。

可愛らしいピンクのベビーカー。

デフォルメされた天使が描かれている可愛らしいベビーカー。

いよいよ雨が強くなる。

さらに強くなる泣き声。

母親は何をしている。

母親は『いる』のか？

柔らかなピンクが水を吸つて黒ずんできた。
雨のかからないところに移動させなければ。
その前に足を。

本能の告げる得体の知れない恐怖に竦んだ私の足を動かさなければ。
唐突に泣き声が止んだ。

ジャリ

後ろから足音がした。

振り返るまもなく私のすぐ横を真っ黒な何かが通り過ぎた。
通り過ぎる時どぶ川の臭いがした。

私は転げるようにして逃げ帰った。
雨は止みそうに無い。

アレはあいつと母親だ。

アレが近づいた時ベビーカーから無数の細長い手が溢れ出で、まるで赤ちゃんのようにアレに向かって手を伸ばしたから。

母親は『いた』。

(後書き)

感想もらえたなら嬉しいです

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0649h/>

ベビーカー

2010年11月29日07時36分発行